

HPVワクチン東京訴訟 支援ネットワークニュース

HPVワクチン東京訴訟支援ネットワーク

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-17-10 エキニア池袋6F
城北法律事務所内

ホームページ：<http://hpv-yakugai-shien.net/>

Facebookページ：<https://www.facebook.com/hpvy.yakugai.tsn/>

E-MAIL：hpv_shien@yahoo.co.jp



No.12 2018年8月10日



第7回期日を傍聴しました

2018年8月8日(水)、台風接近のため、リレートークと街頭宣伝は中止となりましたが、東京地方裁判所103号法廷は満席状態で開かれました。

はじめに、原告側弁護士の陳述に続き、原告女性が訴えました。被告側は、原告側の主張に対して「子宮頸がんの恐ろしさや予防の大切さ」を訴え、またHANSへの反論をしましたが、過去の主張をくり返す内容です。

ワクチンの成分によって引き起こされた症状という原告の訴えに、接種啓発活動は「痛みに耐えろ」とのことでしょうか。自動車ならリコール対象商品で、企業は反論するより改善改良へ歩んだ方が賢いのではと感じられました。(白井千菜 新医協事務局勤務)



望月瑠菜さんの意見陳述から、一部を紹介します



私は、原告番号27番です。今年成人を迎えます。

私は小さい頃からスポーツが大好きでした。中学校でも生徒会長をやり、バドミントン部に所属して活動する活発な学校生活を送っていました。

私は小学6年生の時にサーバリックスを接種しました。接種の翌日から接種部分が赤く腫れかゆみが出て来ました。2回目の接種後から光が眩しいと強く感じるようになりました。

中学校に入学してからは、膝から始まり体のあちこちが痛くなることがありました。痛む場所も痛みの種類も痛みの強さも様々で、本当に痛いときは箸を持てなかったり動けなくなったりすることがありました。

高校1年生の夏休みの8月8日に、突然膝に力が入らず歩くと膝がカクカク折れるようになりました。その翌日には、歩くことができなくなりました。

その後も症状は悪化して、手に力が入らなくなり、私は日に日に自分の体が壊れて昨日できていたことが全くできなくなってしまう恐怖でおびえ、夜は今日を閉じたら明日目を覚ますことはないんじゃないか、このまま死んでしまうんじゃないか、という不安で眠れない日々が続きました。

私は今でも少し長く歩くと足が痛くなり、疲れてくると足がすごく震え、腕に力が入らなくなり、頭痛も日常的に起きます。



みんなと楽しく笑顔で過ごすはずだった青春、進路希望調査で書いた「理学療法士になりたい」という夢、輝く未来がたった3回のワクチンによって奪われてしまいました。打つ前にこんなことがわかっていたら絶対に打っていませんでした。ガンにならないためのワクチンが若い女の子の全てを奪っていいはずがない。こんなことおかしいです。

(次ページへ続く)



国が勧めたものです。製薬会社が作ったものです。責任を取るのは国と製薬会社です。私たち被害者が騒ぐから HPV ワクチンを打つ人が減って将来子宮頸がんにかかる人が増えると言いますが、それは「数々の少女の人生を犠牲にしてもかまわない」という意味ですか？ 私にはそういう風にしか聞こえません。

私は小さい時から、日本は治安も良くて自然も綺麗で素敵な国だ、日本に生まれてきたことを本当に良かったなと思っていました。もうこれ以上国民をがっかりさせないで欲しいです。一刻も早く迅速に対応をしていただきたいです。



原告側代理人の大久保陽加弁護士は、第 15 準備書面をもとに、各国の被害状況やワクチン接種状況を陳述しました。そのなかで、3 月の国際シンポジウムをもとに、世界各地でその危険性が問題となっていることを示した部分を紹介します。

被告 GSK は、サーバリックスが、133 の国や地域で承認されており、34 の国や地域で公的接種プログラムに組み込まれており、安全で有効と主張しています。

しかし、HPV ワクチンの危険性が問題となっている国は、日本だけではありません。

コロンビアでは、2015 年に、HPV ワクチン接種の被害者団体が設立されています。また、コロンビアでは、2013 年の国家予防接種法で、HPV ワクチンの強制接種が規定されましたが、2017 年 8 月の憲法裁判所の決定で、HPV ワクチンの接種を強制できないことが確認されています。さらに、2017 年 8 月、国や製薬企業を相手に、約 700 人の少女の救済をめざすいわゆるクラスアクションによる裁判が提起されています。

スペインでは、2009 年 7 月に被害者団体が設立されています。2018 年 3 月現在、ワクチン接種を受けた被害者自身 27 人を含む 170 人の会員がいます。スペ

インの被害者たちも、国や製薬企業を相手に裁判を起しています。イギリスでは、2015 年に被害者団体が設立されており、2018 年 2 月現在、521 人の被害者と家族の会員がいます。

アイルランドでは、2015 年 5 月に被害者団体が設立されました。被害者約 400 人とその家族が所属しており、フェイスブックではフォロワーが 2 万人にも上っています。また、被害者団体の動画は、フェイスブックだけに限っても 100 万回以上視聴され、HPV ワクチンの危険性が社会問題となっています。

二度と自分たちのような被害者を出さないで欲しい。これは薬害被害者に共通する願いです。これ以上、将来ある若い女性たちに、人生をも狂わせる深刻な副反応被害を生み出さないためにも、裁判所の科学的かつ適切なご判断をお願い致します。



国際シンポジウム「世界の HPV ワクチン被害は今」紹介ページ <http://www.yakugai.gr.jp/topics/topic.php?id=954>



第 19 回 薬害根絶デー

8 月 23 日 (木)

16:45 御茶ノ水駅前 宣伝行動

18:30 前夜集会 (会場：文京区民センター 2-A 会議室)

8 月 24 日 (金)

11:45 厚労省前リレートーク

13:00 碑の前行動

主催：薬害根絶デー実行委員会

薬害根絶デー書庫 <http://www.gaiki.net/yakugai/ykd/>



★ 支援ネット例会のご案内

日時 8 月 31 日(金) 18:30~20:30

場所 城北法律事務所 (池袋駅西口すぐ)

どなたでも参加できます。

支援ネットへ 入会をお願いします

- 入会申込み WEB 入力フォーム

<https://goo.gl/forms/IJmdrsiNu4EkaELO2>

